

大学における日本語教育の課題

—キャリア支援との関連において—
(ディスカッションのための論点整理)

2017年12月22日

西原鈴子

大学における日本語教育の二つの目標

入口戦略

学修媒介言語
の習得

学生生活の充
実

出口戦略

専門教育を通
じたキャリア
形成の模索

卒業/修了後の
実社会との
マッチング

日本語学習に関する焦点の差：日本 v s. 海外

日本の大学：

入口戦略に重点が置かれる（日本の大学への導入・定着）

出口戦略は、特別にはフォーカスされず、専門分野の教育を通して間接的に行われる。

海外の大学：

出口戦略に重点が置かれる。

キャリア形成支援を大学として企画する。

（フィールドワーク・インターンシップなど）

考慮すべき課題

日本の大学の場合

留学生の日本国内での就職

平成27年度の進路調査では、日本国内に就職した卒業・修了生は35～39%
大学の出口戦略が問われている。

海外の大学の場合

日本語人材と実社会とのマッチング

対日政治経済関係に依存する度合いが高い。
求められるのは「日本語」か「専門性」か？

ディスカッションのための論点

論点1 :

教育課程における専門教育とキャリア教育のバランス
キャリア教育の日本語カリキュラムにおける位置づけ

論点2 :

就職先とのマッチングは日本語教育担当者の仕事か？

論点3 :

それぞれの大学における今後の展望

「留学生30万人計画」骨子の概要

ポイント

- ☆ 「グローバル戦略」展開の一環として2020年を目途に留学生受入れ30万人を目指す。
- ☆ 大学等の教育研究の国際競争力を高め、優れた留学生を戦略的に獲得。
- ☆ 関係省庁・機関等が総合的・有機的に連携して計画を推進

